

志を立てて

新型コロナウイルス感染症対策が始まって二年が経ちました。県独自の緊急事態宣言は先月解除されましたが、本県はもとより、他県においても感染者の数は下げ止まりが続き、予断を許さない状況です。そんな中、小学4年生は二分の一人式を、中学2年生は立志式を行いました。

中学校での勤務経験がほとんどない私にとって、「立志式」は恥ずかしながら初めてで、新鮮な行事です。「立志」という言葉をまず広辞苑で調べ、立志式の意義を確認しました。「『立志』とは志を立てることを。将来の目的（立志）を定めて、これを成し遂げようと決心すること。」とあります。立志式は奈良時代の「元服の儀」に由来するともいわれ、現代では子どもが数え年で15歳になったことを祝う式で、学校によって時期や形態も様々なようです。



本校では、毎年2月の授業参観でこの式を行っていましたが、今回は新型コロナウイルス感染症防止のため授業参観を中止し、生徒と教職員のみで行いました。中学2年生の生徒8名は、今の自分から見た大人のイメージ等を考え、将来どんな大人になりたいか、そのために今何が必要か、また、責任を持つことの大切さなどを真剣に考え、将来への決意をみんなの前で発表しました。

4月からは中学3年生となり、学校を引っ張る立場になります。頼れるリーダーとして頑張ることを期待します。

夢と希望・感謝を胸に

一つ會にわれら学びて

R3.3.3発行
文責：副校長



二分の一人式

小学4年生は2月26日（金）に二分の一人式を行いました。成人式は20歳の年に行われる式ですが、10歳はその半分にあたるので、「二分の一人式」という名前になっています。10歳というちょうど大人への道を半分すすんだ子どもたちに、今までの自分を振り返り、未来を考えてもらうのが狙いです。式では、3年生と合同で一所懸命練習した「炎」という曲を合奏した後、これまでお家の方やお世話になった方々への感謝の気持ちを発表しました。その次に、3年生から一人一人にお祝いの言葉が伝えられ、アルバムにして手渡しました。アルバムを受け取る子どもの表情はとても嬉しそうでした。きっと大切な宝物になったことでしょう。ところで、令和4年度から民法上の成人は18歳に引き下げられます。制度上ではあっても将来そのような扱いになるということを前提に、教育に携わる

児童生徒協議会

私たち教職員は、子どもたちの発達段階に応じた教育を確実にすすめる、時代や社会の変化に応じて柔軟に対応できる子どもを育てていかなければと考えています。

2月19日（金）に児童生徒協議会を開きました。これは小中教育一貫校として初めての試みで、生徒会執行部、児童会運営委員会、各委員長が集まり、それぞれの立場で取組の成果報告や現状、課題等を出し合いその解決方法や目標を話し合うものです。今回は、月の目標と取組内容、来月の目標と取組内容について共通理解を図った後に、あいさつ運動の取組について話し合いました。決定事項の要約は次の通りです。

- ◆あいさつ運動だけでなく、それ以外でもあいさつをして習慣化を図った方がよい。
- ◆各学級で呼びかけをする
- ◆あいさつ名人の取組強化

児童会・生徒活動が活性化

児童会・生徒協議会

2月9日（火）に新旧生徒会役員及び新旧児童会運営委員が集まって座談会を行いました。本来なら、泉学舎協議会委員と一緒に同席していただいていた報告する会でしたが、中止になり児童生徒のみでの座談会という形で行いました。事前にふり返りシートを準備して、会に臨んでもらいました。児童生徒の意識について少し紹介します。

★一年間あいさつがよくできた？

【児童】とてもよくできた13%

よくできた87%

【生徒】とてもよくできた50%

よくできた50%

小中学生共に、立ち止まってあいさつができなかった、笑顔であいさつできなかったという振り返りも多くありました。子どもたちは今後、感謝の気持ちを込めて笑顔であいさつをしたいという気持ちを持っていきます。地域の皆様にも見守られ、声をかけて頂くといただきますと、子どもたちの励みになると思います。



会議前にあいさつする黒木生徒会長



異学年がテーブルを囲み話し合う様子